

戻す工夫して箱詰め

46年間ありがとう



2024年春再開

書籍が詰められた段ボールが所狭しと並ぶ1階。いずれも通覧寺宏絵撮影

十月に本格化する大規模改修に向け、福井市立図書館（文京二）は蔵書の引っ越し作業の真っ最中。段ボール箱に詰めて、搬出の繰り返しだが、四十六万冊となると容易ではない。越前松平家などから寄贈を受けた貴重な資料も多く、神経を使う。「休館中」の紙が貼られた窓ガラスの向こうは、今まで以上の忙しさだった。

絵本の読み聞かせを楽しまる親子や、歴史小説を抱えたお年寄りでにぎわっていた一階は、段ボール箱に占拠されていた。その隙間で、職員が黙々と箱詰め作業。書架が次々に空になっていく。

五月九日に休館した。一階の開架図書はICタグ付けとシステム登録を済ませ、今月中旬に箱詰め作業を始めた。七月上旬には全ての搬出を終え、図書は市内施設でいったん眠りに就く。段ボール箱に貼られたテープをよく見ると、色とりどり。リニューアル後を見据えて、白は新図書

館の一階へ、黄は二階へ、と戻しやすくするための工夫だ。

空っぽの書架には、小学校や別の図書館の名前を記した紙が貼ってあった。こちらは新図書館に新しい本棚が置かれるため、保管せずに希望施設に寄贈する。

市立図書館は一九七六（昭和五十一）年八月に開館した。充実した郷土資料も特徴の一つだった。福井藩の藩校「明道館」にあった漢籍の他、江戸時代の英語やオランダ語の書物などがある。燻蒸処理を施した上で運び出す。

二階の閲覧室の壁や柱は「46年かん、ありがとう」などの文字やイラストで埋め尽くされていた。新図書館への期待も目立つ。省エネ効果の高い環境配慮型の設計で、市民が集う地域交流センターも併設される。リニューアルオープンは二〇二四年春。生まれ変わった図書館に、市民に愛されてきた蔵書も戻って、利用者を迎える。（北原愛）

市民と成長する施設に

福井市教委図書館課長補佐
笹野 直輝さん(48)



市立図書館で勤務して2年目。親子から高校生、学生など大勢に利用いただき、休館前には皆さんが温かなメッセージを書き込んでくれた。新図書館の理念は「市民とともに成長する図書館」。さらに多くの市民が集う居心地の良い空間としたい。



蔵書が運び出され、空の棚だけが並ぶ書庫



手袋をして痛まないように丁寧に包装される松平家寄贈の漢籍



利用者からのメッセージで埋め尽くされた閲覧室

